第２回　学校運営協議会　議事録

2023/11/27

日時　令和５年 11 月 27 日(月)　15：30～17：00
場所　本校会議室
欠席：森、芝崎、

司会：教頭
傍聴なし、過半数を超えたため会議成立

1.校長挨拶

- 会長校務により本日欠席のため、協議進行は辰巳先生へお願いしたい。
- これまでの行事報告(海外語学研修、文化祭、修学旅行など)
- 海外語学研修４年ぶりに開催(詳細報告)。
- 授業外での自主的学習の機会などが、前回協議での課題であった。
  旭高校が地域からどのようにとらえられているのかを忌憚なくご意見をお聞かせ願いたい
- 加えて教員の働き方を進めながら、教育活動の充実を図らなければならない。小中学校、他校での好事例をこの場でご紹介いただければ有難く思います。

2.委員紹介

- 各委員、事務局自己紹介

3.授業見学から

- ディベート、情報などを見学したが自身が幼少期に受けた授業に比べるとスタイルが変化してきている(佐藤)
- ディベートの授業を見学したが、男女問わず各クラス活発でにぎやかであった。机に向かうだけではなく、交流があると頭に残り、とてもいいと思う。情報の授業もプログラミングなどに取り組み、とても驚いた。楽しそうだった(井手)。
- (教頭)　この 1.2 年で授業のスタイルがとても変わった。通常の座学的な授業ももちろんあるが、グループ学習も以前より確実に増加してきた。今の生徒に求められることが、これまでと異なってきている。

4.学校経営目標と現状報告

-

5.各分掌の取組

- 〈教務〉 教科書選定に関して報告
- 〈進路〉 現在実施している各学年の取組について報告
  1 年大学見学会、2 年進路、学部別説明会、OC 参加、受験生への意識づけをさせる講演など
  3 年指定校推薦 33 名で例年並み、共通テスト出願 89 名受験予定、就職 3 名内定済み
- 〈生指〉 日頃から学校に来たら元気ではあるが、遅刻・欠席が昨今の課題　1 学期遅刻前年比 100 件増、欠席増 200 件増　部活動の主な実績は別紙参照　掲載されていない部活動も文化祭等で活躍
- 〈保健〉 来室状況　700 人程度(9 月まで)　内科の主訴が多い。体育祭等の行事後は来室が多い。曜日別

に分析すると、7 限まである火曜・水曜が多い。時間帯では朝から来室することも多い。
養護教諭の複数配置を継続して要望している(本年は 1.5 人配置)、不足があるところは保健部の教諭で必ず複数になるように体制を敷いている。
生徒保健委員会の活性化も実施している。レクレーションなどで健康意識の向上

- 〈図書〉 コロナ後、様々な国際交流行事が再会できた。
  (資料に沿って)語学研修や韓国高校とのオンライン交流、旭→からアメリカへ 1 名留学中　姉妹高校交流や、第二外国語暗唱大会などが実施できるようになった。今後、国際文化科学年行事として交流会などを実施
- 〈情報〉 デジタル採点システムの導入　スキャンで解答用紙を取り込み、ソフト上で採点が出来るようになった
  定期考査などで教員が慣れていく〈資料なし〉

学年より

- 〈3 年〉 主任欠席より割愛
- 〈2 年〉 修学旅行の実施　当初台湾であったが、国内に変更　北海道　生徒からは北海道好印象
  帰阪後、進路への意識へ切替　本学年は生徒自身が自ら動くという点が課題　進路へ向けた雰囲気づくりを。
- 〈1 年〉 考査 2 週間前から学習記録をつけている。2 学期からは Google　form で実施
  類型選択〈文理・AB 型選択〉を実施　学年の雰囲気は素直で学校が好きという印象の生徒が多い。しかし欠席がちな生徒も多い(全国的な課題の可能性もある)。
  現在は進路への意識よりも先に、ともかく考査へ向けた意識づけを実施している。

6.協議

司会進行は辰巳委員　報告いただいた内容でご意見ご質問等はないでしょうか。

- 修学旅行、本当に楽しかったと子供が言っていた。北海道に行かせてもらい本当に貴重であった。子供からホテルから見えた景色をメールで送信してもらい、北海道の雄大さを保護者も実感した。
  大学見学を夏休みの宿題として入れてくれると、保護者としても安心感はある。宿題という形で安心している。
  欠席の増加、コロナの影響かはわからないか、簡単に休みやすくなっている可能性もあるのではないか。
  成績の心配がある際にも、個別の懇談等が実施をはじめ、学年の先生方がきめ細かく対応してくれている有難さを実感している。(井手)
- 導入されたデジタル採点システムは教員に対する働き方改革に資するのか、また生徒たちにメリットはあるのかを聞きたいです(上江洲)。→教員側には採点の時間事務処理時間の短縮になる、物理的な答案用紙の移動時間の短縮にもなった。また生徒にとっては試験実施から答案返却までの時間短縮メリットがある(濱野)。
  採点はＡＩが自動的にするのか？(上江洲)→AI 実施は部分的に可能。但し精度には課題があるので、結局は人間がチェックをする形になる(濱野)。
- 書いた文字がテキスト化されるスマホアプリもある。時代の進歩であると思う(佐藤)
- 教科書選定は具体的にはどのように進んでいくのでしょうか(佐藤)→教科の方で様々な教科書から選定する形になる。昨年度と同様の場合、変更する場合ともに必ず選定理由を提出することになる(東)。
- 学校へ遅刻、行き渋っている生徒に関して、高校では別室登校は存在するのか(辰巳)→高校の場合は、単位認定や出席時数の基準であるので、別室登校というのは非常に難しい。保健室で休養する場合でも、基本的には休養は 1 時間までという風に決めている。1 時間経過後に教室復帰か、早退かを判断させている。別室にて授業実施するのは大変難しい事情がある。
- どの府立学校でも課題となっているが、欠席日数や欠課時数の課題がある。欠席を出席扱いとしても、欠課時数としてカウントされることとなる(校長)。なかなか課題が多く、難しい部分である。

地域からみた旭高校の印象

- 旭陽中学校の生徒はずっと旭高校の生徒を目にしている。本当にずいぶん前よりも学校が良くなった。本当にずいぶん前は「本当に旭高校大丈夫？」と印象を受けていた。小中高一貫教育と生徒が発言するくらい、地域に密着している(辰巳)。
- 保護者の立場からみても、旭高校は憧れの学校の 1 つ。卒業生から見てもそのような印象であると思う(佐藤)。
- 親族が旭の卒業生で、30 年ほど前に旭は名門校であったと聞いている。大昔、旭高校が「本当に大丈夫？」という状況であったようだが、どんな状況だったのか知りたい。卒業生が誇りを持てるような学校にしてほしい(上江洲)。→大勢が道に広がっているところを、地域の人が注意しても受け入れて貰えない、また遅刻など非常に多いような状況であったと聞いている(辰巳)
- 娘の幼馴染(中学 3 年生)が旭高校に興味を示していて、娘に話を聞くような様子がある。人が温かいという印象を娘も、親も感じている(井手)。

小中学校での教員の働き方改革

- ゆとりの日の設定を委員会から実施するようになった。しかし部活の都合があり、17 時丁度に退勤することは難しい。行事日や考査期間などは電話を 17 時で留守番電話に切り替えるようにした。大阪市もデジタル採点システムが導入された。若手は採点が楽になったという声が多い。部活動や生徒指導、また不登校に関して、個別の対応をしなければならない場面も多く、別室でのオンライン授業など課題が多い。(辰巳)
- 電話対応、17 時までと決まっていれば保護者も 17 時までしかかけられないと準備できる。保護者としても先生方の負担にならないようにと思います(上江洲)。
- 部活動の外部指導員は存在するのか(上江洲)→何名かいる(教頭)　中学校でも複数名いて、費用は大阪市が負担してくれる(辰巳)
- 部活動指導や土日の指導なども、先生方の負担が減ることを願っている(上江洲)。
- 語学研修のブログや生徒の様子がわかりやすく発信されている(井手)。
- 電話以外にもメール等の手段があればよいかもしれない(井手)。

真にあこがれる学校になるには、攻めの姿勢が大切ということもある。どういう形でアピールしていくか。もちろんメリットだけでなく、デメリットも洗い出す必要がある。学校見学会や学校説明会などで興味を示してくれた方に対し、「どうして旭高校を知りましたか？どこが気になりましたか？」と尋ねるのも一つの手である(校長)。

学校への意見書の提出は無かったことを再度確認し、協議を閉会したいと思います(辰巳)。

7.校長謝辞

8.諸連絡

次回の予定確認